

会長短信

会長 西山 靖郎

OB、OG 諸先輩におかれましては、いつもご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

本年は三年ぶりに全国大会に出場出来ました事は一つの目標を達成した思いでございますが、応援に来ていただいた先輩方はお気付きと思いますが、出場機体が母校の校章の付いた機体でなかった事は非常に残念な思いをされたことだと思います。

何年か先には校章の付いた機体で団体戦をチーム“DOSHI SHA”として戦ってもらいたいものだと思っております。

さて、翔友 Vol3 3 の編集後記に書かれておりました、ライセンスを持った上級生の退部が目立つとの事、気にかかっておりましたが一体感に欠ける空気が蔓延しているように感じ、長年就任されている監督と最近の学生の感覚の間に乖離が生じているのではないかと思いはじめました。

そこで、翔友会の全面的な支援を条件に玉井コーチに監督就任を打診し受諾いただきました。

集団指導体制は今まで通り続けていきます。

森川前監督には平成14年より17年の長きに亘り献身的に部を導いて下さった事は非常に感謝しています。これからは培われた豊富な知識と共にバックアップしていただければと思います。

玉井新監督におかれましては、先日の総会において学生個々の4年間を考えて指導を適切に行う旨の所信をいただき期待するものでございます。

昨年は翔友会より新人勧誘に30万円を支援し8名（現在は4名）の獲得に至りましたが、本年も同様の支援をしていきたいと思っておりますので皆様

方のご協力をお願いする所存でございます。

本年度には、同志社スポーツのあゆみ Vol3 及び同志社スポーツユニオン名鑑の発行予定がありますのでご希望の方はご連絡下さい。

末筆になりましたが、皆様のご健勝をお祈りいたします。本年も、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

部長短信

部長 宮本 博之

航空部長を拝命してから早くも1年が経過しました。当初はほとんど活動内容が分かっておりませんでした。この1年を通してようやく活動の全体像がわかるようになりました。4月の新入生の勧誘と体験飛行から始まり、年10回以上の合宿、関関同立戦などの地方大会や全国大会など想像を上回る活動内容でした。この一年間で強く感じたことは、部員の皆さんが、監督、コーチを始めとするOBの方々の支援に、大変恵まれているということです。特に監督やコーチは各々の仕事があるにも関わらず、大会や合宿では休暇を取って指導のために参加されておられます。昨年の夏に初めて体験飛行を経験しましたが、他の一般的なスポーツと違って、グライダーの操作は操作技量だけでなく、維持管理、関連法規、気象条件など非常に専門的な知識と経験を必要とするため、学生だけでは活動できないという特殊事情があるのも一因でしょう。

いずれにしても、学生諸君にとっては、クラブ活動を通して、人生の先輩でもあるOBの方々と密に交流を深めることは貴重な経験であると同時に、今後の人格形成にも大きな影響を与えていると思います。このようなOBの方々と学生の深い関係を通じて、脈々と続いた同志社大学航空部の80年という長い歴史があることを思うと感慨深いものがあります。学生諸君も卒業しても、航空部を支援してくれることを期待しています。

残念ながら、ここ数年は航空部に入部する学生の数が低迷しています。最近ではインターネットの普及によりバーチャル世界がハードウェアを圧している感がありますが、「生のメカ」に関心を持ち、情熱を傾けてくれる学生が増えてくれることを切に願います。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。



監督短信

監督 森川 泰

2018年度も残すこと僅かな時期となり、全国大会直前の木曾川での合宿の合間に本稿を書いております。ここ数年事故が続いたりして全国大会も変則的な開催になったりしていました。更に東海関西地区も事故を受けての訓練自粛などで部員のフライト回数が伸びなかった為に自家用操縦士の養成が進まず、全体的なレベル低下に悩んでおります。

そんな中、今年度は3年ぶりの関関同立戦開催になんとか漕ぎ着けました。また東海関西競技会では山口七海が個人3位となり、同志社も久しぶりに全国大会へ出場することになりました。残念ながら出場選手は1名で団体成績の対象にはなりません、出場する山口選手には最善を尽くして頑張ってもらいたいと思っています。

さて今年度を振り返りますと、クラブ運営も合宿活動もなかなか上手くいかず反省の多い一年でした。OB会のご支援を頂いて新人勧誘活動に力を入れ、当初8名ほどの新入部員を獲得しましたが、その後数名が退部し、現在、部員は総勢11名となっております。更に上級生が少ないこともあり、クラブ活動を軌道に乗せることが出来ませんでした。多くのOBの力を借りて運営を進めていた状況でした。そして今春4年生が卒業すると7名プラス来年度の新人と言うこととなりますので、来年度もOB会や各OB・OGのご支援も頂き、意欲のある新人を多く獲得していかなければ立ち行きません。合宿については部員数が少ないこともあり、他大学との合同合宿が中心となりました。合宿運営も合同合宿相手など他大学に助けられての合宿でした。この状況を脱する為には、部員の人数増大、そして個々の能力アップにも努力していかなければなりません。

その一方、幸か不幸か、部員が少なく、少人数合宿も多かったが為に、比較的フライト回数が伸びた1年生もおりました。勿論、他大学の合宿などへ積極的に参加した個人の努力もありました。上級生はというと新たに1名が自家用操縦士になり、なんとか全国大会にも出場致します。フライト面でも教官が更なる努力をし、部員の技量を着実に向上させ、コンスタントに自家用操縦士を育ていかなければならないと思っております。全国大会も事故の反省から大会のあり方を見直し、過去は1大学が3名チームを2チームまで出場可能でしたが、現在は1大学が最大5名1チームでの参加と変わって来ております。今後、全国大会で成績を残していく為には、機体や戦略、選手育成を見直して行く必要があります。

最後になりましたが、これからも同志社航空部の活動にはOB・OGの皆様のご支援ご協力が必ずですので、引き続きよろしくお願い致します。

監督就任のご挨拶

1992年卒 玉井 克典

翔友会諸先輩方、OB、OGの皆様、平素は航空部への多大なご支援・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。指導スタッフを代表してお礼申しあげます。

このたび2019年度より、監督を務めさせて頂くことになり、合わせて三田村OBにコーチに就いてもらいました。就任に当たり一言ご挨拶をさせていただきます。

We are drawing our future together

～未来を変えるために、今行動する～

就任に際し自分自身の指針として何かないかと考え、いいなと思ったのがこの言葉でした。英文と日本語は訳語というわけではなく別の出典ですが、フィットしたので組み合わせました。

“We are drawing our future together”

これは10年ほど前、私が勤務先から同志社大学院に派遣されていた時、所属ゼミで議論の根底に共有していた理念です。現実のビジネスの現場では様々な課題があり、どうすれば解決できるか、そのソリューションを考えることは当然求められます。もちろんビジネスですから課題を解決し利益を上げることが大切です。その上で、それが顧客のためになっているのか、さらに社会の持続的な発展の維持に寄与するののかも同じように大切に、そんな未来を創っていこうという理念でした。

「未来を変えるために、今行動する」

こちらは先日手にした新書(著者はJALの元パイロット、教官)にあった言葉です。ピンチをうまく切り抜けるのが上手なパイロットではなく、そういう状況に陥らないようにあらかじめ準備し、先手を打つことができるパイロットが良いパイロ

ットである。実際のフライトオペレーションの事例から操縦士の指導の方法まで、さらにはパイロットに求められる資質(一生、学び研究する姿勢が大事)に至るまで、多くの具体例をもとに述べられていました。将来を予測し今行動することで未来を変えられる、だから未来を変えるために今行動しよう、ということです。

さて航空部の現状です。ご存じの通りこの数年来部員の減少が続いており、部の運営がまともできない、合宿もOB諸氏や他大学の応援なくしては実施できない状況です。一時は盛り返してきた時期もありましたがその流れも再び途切れ、うまく運営できない負のスパイラルに陥っています。私自身も指導スタッフの一員でしたので、このような状況に歯がゆいさ、悔しい思いを持っており、同時に責任の一端も感じておりました。

もちろん森川前監督も数年来危機感をもっておられ、立て直しの施策を打ってこられました。学生のレベルが戻るまで、整備や運営面でのOB諸氏による支援体制を確立し、合宿では若手OBの協力も得て、何とか機能を維持し、改善しつつあるところでした。

そのようななかで、久しぶりに全国大会に出場できたことは喜ばしいことでした。残念ながら成績は伴いませんでしたが、出場にブランクがあった中、よく健闘してくれたと思います。また田淵OBが操縦教育証明を取得し、指導スタッフに加わってくれました。就職、家庭を持ってからの受験であり大変だったと思いますが、よくやってくれました。

危機的な状況の中での出発ではあり、すぐに全

国大会とはなりません、「勝つ」という目標は忘れずに、預かった学生を4年間きちんと育てていきたいと思います。輝かしい「未来」を作るために、学生たちみんなが卒業時に航空部でよかったと思えるように、今、一緒に将来を描いて行動を始めましょう。

OB、OG 諸氏の引き続きのご支援をお願いいたします。

